

センター つとじん

NO.117



子どもの風景 第16回

お風呂掃除

ようた (小6)

ぼくは、お風呂掃除は好きではありません。今日はぼくの家のお風呂掃除について紹介します。

まず、お風呂掃除は、たまにお母さんがやってくれますが、だいたいぼくか弟がやります。お兄ちゃんは部活で忙しいので、ぼくか弟がやります。ぼくと弟はお風呂掃除はやりたくないのです、どちらがするかを、じゃんけんかゲームで決めます。じゃんけんは、弟が最初にチョキを出すので、ぼくはグーを出します。たまにぼくが、「じゃんけんで決めよう。」

と言ったときに、自信満々で「いいよ。」と言ってくるので、パーを出してくるなどだいたい分かれます。なのでぼくはチョキを出します。

弟はとても分かりやすいので、ほとんどぼくが勝ちます。でも、先を読みすぎてぼくが負けてしまうこともあります。じゃんけんは、この調子で勝ちたいです。

目次 2024年12月

子どもの風景 (第16回)	1
特集 研究センター 30周年 III	
運営委員長挨拶	
これからの課題と展望を探る	数見 隆生 2
写真で見るセンター、この10年	千葉 建夫 3
年表 センター30年のあゆみ	菅井 仁 13
教育への思い・センターへの期待 (その3)	
子どもの“理由”を聞く耳をもつ大人に	鎌田 克信 18
母として、教師として	玉手まなみ 18
教育に「自由」を取り戻す	渡辺 孝之 19
私たち自身が新自由主義から解放されるために	高橋 正行 20
いつかまた会える日を	貝塚 順子 21
おすすめ映画	豊永 敏久 22
読書のすすめ (第18回)	矢部智江子 22
相談センター報告 (第37回)	佐々木久美 23
ひと言	佐藤 正夫 24
子どもの風景 作品について	鈴木 裕子 24
センターの動き・編集後記	24

みやぎ教育文化研究センター設立30周年記念特集Ⅲ

この10年間の活動を総括し、これからの課題と展望を探る

運営委員長 数見隆生

本センターは、1994年2月の発足から昨年が30周年の節目に当たる1年でした。この「センターつうしん」が特集Ⅲとなつていくように今年度3回目の特集となります。センター発足当初にすでにわが国の、そして県内の学校と子どもには様々な課題が生じていましたが、その状況は徐々に増幅し、前2回の特集（講演会やシンポジウム等）や研究年報4号で提起したように、事態は近年一層の深刻さを呈してきています。

今回の「つうしん」では、そうした状況下において当センターがこの10年間に行ってきた主な活動や取り組みを、できるだけわかりやすく提示させていただきました。

センターの運営体制は、発足から約20余年間、中森孜郎・春日辰夫の両氏が担ってこられました。この10年間は、それを引き継ぎ、発展させる役割を負って、2015年度より所長は菅井仁氏が、17年度より運営委員長を数見が担うことになり、さらに定年制の関係で20年度より所長を高橋達郎氏に交代して現在に至っています。こうした運営体制の継続を伴いながら行ってきた活動を総括すると、次のようなことでした。

学校と子どもをめぐる背景では、2011年に発生した東日本大震災の余波の被災状況が地域や学校・子どもにあり、その後も「いのちと教育を考えるつどい」を毎年行つてきています。また、2015年は戦後70年の年でしたが、「安保関連法」が国会で強行採決される状況が生じ、平和問題への課題が一気に現実化してきました。また、この頃から不登校の子どもが中学生だけでなく小学生にも広がりはじめ、宮城県は「発生率全国一」と報道されるなど、「いじめ」や「暴力」なども含め子どもの生きづらさが一段と課題視される状況が広が

りました。さらに、2020年になるとコロナ禍が生じ第一波から六波まで約2年余り猛威を振るう状況が続きました。その当初に全国の学校で長期の一斉休校が執行されたり、緊急事態宣言が出されたりもしました。学校ではこうした困難状況と重なりながら、19年度よりGIGAスクール構想が文科省より推進され、小・中学生に一人一台のタブレット端末が配布されるなど、ICT教育が急速に広がりました。

こうした学校と子どもに押し寄せたここ10年間の様々な環境的、政策的動向と、それより少し前（2000年代半ば）に施策化された教育基本法改悪、全国一斉学力テスト下での学力格差問題や不十分な体制下でのインクルーシブ教育の矛盾が広がり、教員の多忙化と教育困難な状況、子どもの生きづらさの問題が顕著になりました。そうした矛盾を覆うように教育のスタンダード化や職務の標準化が推奨され、教育のデジタル化も相まって、教師の地道な教育実践的取り組みや子どもにとつての楽しい学校が喪失されてきています。

本センターは、こうした動向の中で、何をなしたのか、なかなか先行きが見えない未来社会への国策と教育行政のもと、その課題と課題を議論しながらやれることを追究してきたように思います。とりわけ行ってきたことは、先に述べた様々な時代的、政策的動向と関わった子どもや学校の困難に対応する問題と課題を共有するために講演会や学習会・座談会等を行うと共に「研究部」を立ち上げ、データや論考・実践という形で「研究年報」を発刊してきました。ただ、残念ながら、先に述べた閉塞化しつつある学校・教育状況の中での現職教員への本質的職務に対する支援が十分なしえないで来たという問題があると考えています。今後一層子どもの学びや発達に繋がる支援に尽力したいと思えます。

- 1月 センター事務局引っ越し（4Fに） ・ゼミナールsirubeの会（月例会） ・『教育』を読む会（月例会）
- 3月 3・11大震災から4年「いのち・子どもと教育を考えるつどい」
- 4月 菅井仁さん、新センター所長となる ・子どもと授業を考える若い教師の会（4月～2月 月例会）
- 6月 文学作品の読みの授業講座（第2回9月 第3回10月） ・6年生担任の実践交流会（第2回11月）
- 7月 フォーラム「子どもの今と未来を考える」第7回『不登校問題』－宮城が不登校率、全国一はどのようにして？
- 8月 みんなで21世紀の未来をひらく教育の集い－全国教育研究集会 2015in 宮城 ・夏休みスイミー講座
- 9月 日本臨床教育学会との被災地聞き取り調査（石巻）
- 10月 みやぎ教育のつどい：講演 森田ゆりさん「しつけと体罰～子どもの内なる力を育てる道筋」



4月より
センター所長の交代
新所長 菅井 仁さん



対 談

太田直道さん（哲学者） 山形孝夫さん（宗教人類学者）

3・11は、
私たちにとって何だったのか



第7回フォーラム

みやぎが不登校率全国一なのはどのようにして？

今日のスポーツの
中の子どもたち
久保 健
子どものからだ・
スポーツの現状と
体育科の役割
黒川 哲也
教育現場における
「組体操」問題の
語り方
神谷 拓



成瀬未来中の生徒が踊る御神楽

特集 子どもとスポーツ文化



教育のつどいの参加者

報告・みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい
特設分科会「東日本大震災の復興を目指して」



劇「父を騙す」の上演舞台

戦争とは
名取北高演劇部



仙台空襲地図 映像の一部

仙台空襲テーマ30分の映像作品
仙台工業高 模倣部



薄井彩香さん



佐藤将希さん



中塚友哉さん



伊藤研二さん



三浦瑞樹さん



長谷川健太さん

戦後70年
「戦争と平和」に向き合う高校生
名取北高卒業生（現大学1年） 仙台工業高3年生
佐藤 将希（回天の特攻兵役） 伊藤 研二（取材・聞き取り担当）
薄井 彩香（恋人役） 中塚 友哉（編集担当）
三浦 瑞樹（取材・記録写真担当） 長谷川健太（ナレーション担当）

- センターこうしん
- 77号 特集 日本臨床教育学会第4回研究大会・報告（2014年12月発行）
 - 別冊11号 子ども教育文化（国語・英語協同授業の報告）他
 - 78号 対談3・11は、私たちにとって何だったのか（山形孝夫・太田直道）
 - 別冊12号 子ども教育文化（いつまでつづく？ 米作り）他
 - 79号 特集 「山形・太田対談」を読んで
 - 80号 特集 戦後70年「戦争と平和」に向き合う高校生
 - 別冊13号 子ども教育文化（教育のつどい2015）他
 - 81号 特集 子どもとスポーツ文化

2016年

- 1月 新春講演会：中村桂子さん「生きものとしての人間から、自然と科学を問う」
道徳と教育を考える会（隔月） ・ゼミナール sirube の会（月例会） ・「教育」を読む会（月例会）
- 2月 3・11大震災から5年「いのち・子どもと教育を考えるつどい」ー子どもの心をひらき、出会い、ともに生きるために
- 6月 書籍『宮城の保健室』発行
- 8月 こくご講座：講演 宮川健郎さん「児童文学の想像力と子ども」（第2回10月 第3回12月）
- 9月 日本臨床教育学会との被災地聞き取り調査（女川 南三陸町 戸倉中学校 戸倉小学校）
- 10月 フォーラム「子どもの今と未来を考える」第8回「子どもの育ちと『食』～食の豊かさ、貧しさとは」
- 11月 みやぎ教育のつどい：講演 大内裕和さん「教育における格差と貧困」ー奨学金とブラックバイトー



つどいの話題提供者

3・11大震災から5年
いのち・子どもと教育を
考えるつどい



中村桂子さん（生命誌研究者）

生きものとしての人間から、自然と科学を問う
「生命誌の世界をのぞいてみよう」
中村桂子



宮川健郎さん（武蔵野大学教授）

児童文学の想像力と子ども

～生きにくさの抜け道～

講師 宮川 健郎さん（武蔵野大学教授）



講演後の話し合い



朝市センター保育園の子どもたち

特集

社会の主人公を育てる保育・教育の創造



佐久間千枝さん



大坂亜希さん



早坂百合恵さん



千坂朋広さん

特集

やりがいのある教師の仕事

出席者 千坂 朋広さん（中学校教師） 佐久間千枝さん（中学校教師）

早坂百合恵さん（小学校教師） 大坂 亜希さん（小学校教師）

- センターつどい
- 82号 特集 座談会・やりがいのある教師の仕事
 - 別冊14号 子ども教育文化「カマラード」の歩み（他）
 - 83号 特集 宮城の特別支援教育と子どもたち
 - 84号 特集 社会の主人公を育てる保育・教育の創造
 - 別冊15号 子ども教育文化「こんぎつね」テーマと発問プラン（他）
 - 85号 特集 保健室と子ども・学校（2017・1・10 発行）

2017年

- 1月 高校生公開授業：授業者 樋口陽一さん「憲法という人類の知恵」
道徳と教育を考える会（隔月） ・ゼミナール sirube の会（月例会） ・「教育」を読む会（月例会）
- 2月 3・11大震災から6年「いのち・子どもと教育を考えるつどい」－大川小問題と学校防災の現状
ブックレット『生きものとしての人間から、自然と科学を問う』（講演 中村桂子）発行
- 4月 数見隆生さん センター運営委員長となる
- 5月 講演会：安田菜津紀さん「私の出会った子どもたち ～アジアや中東、そして日本の被災地の取材から」
- 6月 「戦後日本の道徳教育」をホームページに掲載
- 8月 こくご講座：講演 松尾福子さん「文庫で出会った子どもたち」（第2回10月 第3回11月）
- 11月 みやぎ教育のつどい：講演 苫野一徳さん「子どもを育てる教育の力 ～そもそも教育は何のため？～」
- 12月 高校生公開授業：授業者 中村桂子さん「知の発見 ～なぜ？を感じる力」

高校生公開授業 憲法という人類の知恵



樋口陽一さん（法学者・憲法学）



新運営委員長
数見 隆生さん

4月より
センター運営委員長
の交代



大山あけみさん



三浦裕介さん



遠藤利美さん



阿部恵利子さん

《出席者》
三浦 裕介さん（小学校教師）
阿部恵利子さん（小学校教師）
遠藤 利美さん（中学校教師）
大山あけみさん（中学校教師）

座談会・学校現場から「いじめ」を考える



安田菜津紀さん
（フォトジャーナリスト）



出会ったカンボジアの子ども

私の出会った子どもたち

安田菜津紀講演会

- センターつうしん
- 86号 特集 子どもたちの育ちと「食」
 - 別冊16号 子ども教育文化 「平和な世界へ」美術の受業（他）
 - 87号 特集 新学習指導要領を考える
 - 88号 特集 「いじめ」をみんなで考えるために
別冊17号 子ども教育文化（高校生の進路指導の難しさ（他）
 - 89号 特集 子どもを命を原点に今日の教育課題を問う

中村桂子さんによる高校生公開授業



中村桂子さん（生命誌研究者）

知の発見 なぜ？を感じる力



生きているってどういうこと？ 考える高校生

2018年

- 1月 道徳と教育を考える会（隔月） ・ゼミナール sirube の会（月例会） ・「教育」を読む会（月例会）
- 3月 3・11大震災から7年「いのち・子どもと教育を考えるつどい」—子どもたちの育ちと心のケア
日本臨床教育学会との被災地聞き取り調査（石巻・女川を中心に復旧、復興の現状を調査）
- 6月 「ナヤンデルタル」の会・（6月～12月随時） ・ブックレット『「憂憤録」の頃の私』（中森孜郎著）発行
算数授業づくり講座：位取りハウスの作成と算数の授業づくり（講師 林由貴さん）（第2回9月）
- 8月 こくご講座：授業づくりのセンスを磨く（第2回10月 第3回12月） ・『東北の教育遺産』発行
- 11月 みやぎ教育のつどい：講演 鈴木大裕さん「日本の教育はどこに向かっているか」
- 12月 高校生公開授業プレ企画：講演 加藤公明さん「社会科歴史の授業をどうつくるのか」



鼎談者
数見隆生さん（上）
中森孜郎さん（下左）
久保 健さん（下右）



特集 「生きること」としての表現
鼎談 表現の教育を問い直す



朝日新聞（2018/8/15）の記事



『憂憤録』の頃の私



学習会・講座の案内



特集 今、子どもたちの幸せを願って



位取り学習はこれで（林由貴さん）

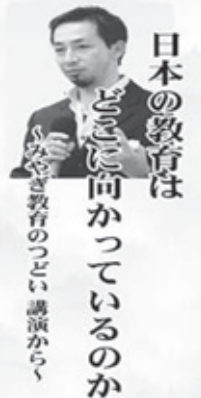


算数の授業の教具をみんなで作る

笑顔あふれる子どもまつり



2018 みやぎ教育のつどい 講演する鈴木大裕さん（NPO法人SOMA 副代表理事・教育研究者）



- センターつうしん
- 90号 特集 いじめ問題を考える（論考 太田直道さん）
 - 別冊18号 子ども 教育文化（生きること）学びの意味を問い直す 俳句・短歌（他）
 - 91号 特集 今、子どもたちの幸せを願って
 - 92号 特集 「生きること」としての表現
 - 別冊19号 子ども 教育文化（道徳の授業をつくる）他
 - 93号 教育のつどい講演 日本の教育はどこに向かっているのか（鈴木大裕さん）

2019年

- 1月 道徳と教育を考える会（隔月） ・ゼミナール sirube の会（月例会） ・「教育」を読む会（月例会）
- 2月 高校生公開授業：授業者 加藤公明さん「歴史探究なぜ？を問うおもしろさ」
- 3月 3・11大震災から8年「いのち・子どもと教育を考えるつどい」－復興教育の実践と課題（徳水博志さん）
- 5月 教育講演会：岩川直樹さん「30cmの向こう側へ」 ・1年生のめんこいゼミ（年4回開催）
- 6月 「ナヤンデルタール」の会（6月～12月随時）－道徳・国語を中心にした授業づくりと交流会
- 8月 こくご講座：「子どもと授業」を考える（報告 小野寺由美子さん）（第2回10月 第3回12月）
- 9月 日本臨床教育学会との被災地聞き取り調査（鳴瀬未来中 雄勝・徳水さん 大川・佐藤さん 鳴瀬桜華小）
- 11月 みやぎ教育のつどい：講演 児美川孝一郎さん「日本の労働市場・雇用と子どもたちの未来」

高校生公開授業 加藤公明さん と一緒に考えよう!



加藤公明さん
(元高校教諭・国土館大客員教授)



中村桂子さんと大田堯さんの対談



岩川直樹さん（埼玉大教授）

30cmの向こう側へ ～子どもに答える教育～

講師 岩川直樹さん（埼玉大教授）



つうしん NO95 相談センター報告（第17回） 「待つ、見守る」という苦しみと喜び

教育相談員 さとう ゆきこ



教育相談センターに通うAさんの切り絵

○「待っていてよかったあ」
この春、喜びの電話がありました。
「孫が高校決まりました、本当に嬉しい
です。これまで待っていてよかったです。」



映画監督 阿部 勉さん

映画「学校」を創る中で考えたこと

映画監督 阿部 勉

センターつうしん

- 97号 いま学校に求められていること（2020・1・17発行）
- 96号 別冊20号 子ども教育文化（1年生、今日も元気いっぱい）他
- 95号 特集 岩川直樹講演記録「30センチの向こう側へ」
- 94号 特集 宮城の教育は「30」に向かっていくのか？93号を読んで

- 1月 高校生公開授業：授業者 山極寿一さん「サル化する人間社会～ゴリラから学ぶこと」
道徳と教育を考える会（隔月） ・ゼミナール sirube の会（月例会） ・「教育」を読む会（月例会）
- 2月 春のつどい講演会：田中孝彦さん「教育・子育ての危機の中で～大田堯の仕事から学び直しを」
- 4月 高橋達郎さん、新センター所長となる ・センター新事務局体制
- 5月 研究部発足ーコロナアンケート調査の実施の検討 ・1年生めんこいゼミ（5月～8月随時）
- 9月 こくご講座：コロナ禍で国語の授業をどうする？（第2回11月 教材の魅力 第3回2021年2月 詩）
- 10月 みやぎ教育のつどい（オンライン開催）：講演 サヘル・ローズさん「逆境を乗り越え、ともに生きる」
ブックレット 『サル化する人間社会～ゴリラから学ぶこと』（講演 山極寿一）発行
- 11月 「ナヤンデルタール」の会（11月～12月随時） ・「センターつうしん」101号よりリニューアル化



山極寿一さん（霊長類学者：京都大学総長）

山極寿一さんの高校生公開授業 サル化する人間社会～ゴリラから学ぶこと



4月より
センター所長の交代
新所長 高橋達郎さん



ゴリラの話に聞き入る高校生

100号を迎えた
センターつうしん



つうしん100号の表紙

教育・子育ての危機の中で

～大田堯の仕事から学びなおしを～

講師 田中孝彦さん（日本臨床教育学会）



田中 孝彦さん



大田堯先生が残したものは？

座談会 主体的にコロナと向き合う子どもをどう育てるか ～コロナ禍の中での学校教育～

〈座談会参加者〉

- 【小学校】 笹川 聡さん 中村 朱里さん
- 【中学校】 小野寺修子さん 芳賀 郁雄さん
- 【養護】 賀谷あゆみさん 日下 幸子さん



笹川 聡さん



日下幸子さん



賀谷あゆみさん



小野寺修子さん



芳賀郁雄さん



中村朱里さん

センターつうしん
101号 コロナ禍での科学的教育活動ー子どもの学ぶ権利の保障（岩倉政城さん）
98号 山極寿一さんの高校生公開授業 概要 他
99号 特集 コロナ休校で子ども・学校・教育は
100号 特集1 「コロナ禍の夏に生きる、考える」
特集2 「センターつうしん」100号を迎えて

2021年

※コロナ禍 第4波 宮城県・仙台市の緊急事態宣言（3/18～6/13） 第5波（8月～）

- 1月 道徳と教育を考える会（隔月） ・ゼミナール sirube の会（月例会） ・「教育」を読む会（月例会）
研究部会（月1～2回）ーコロナ調査結果の分析・まとめの検討
- 2月 3・11大震災から10年「いのち・子どもと教育を考えるつどい」ー震災の教訓をどう継承するか
- 6月 『研究年報』（創刊号）発行 特集：コロナに向き合う主体を育む
作文教育学習会ー何を書いてもいいんだよ ・「ナヤンデルタール」の会（6月～12月随時）
- 7月 教育講演会：児美川孝一郎さん「GIGAスクール構想と子どもが主役の教育」
- 8月 こくご講座：ひとつの文学作品を教材に授業することの意味（第2回12月 教室でこんな詩を）
- 10月 みやぎ教育のつどい：講演 末富芳さん「コロナ禍の社会と教育ー子どもと大人のウェルビーイングを実現する」
- 11月 教育講演会：増山均さん「鈴木道太の実践に学ぶ」（宮城子どもを守る会と共催）

大震災から10年 いのち・子どもと教育を考えるつどい 震災の教訓を どう継承するか ～若者の語り部活動の今と学校防災の未来～



語り部として震災の伝承活動に取り組んでいる高校生、大学生の報告



センターの研究成果
『研究年報』創刊号発行

2021 作文教育学習会



コロナ禍での学習会。若い教師の参加が目立った

夏休み こくご講座



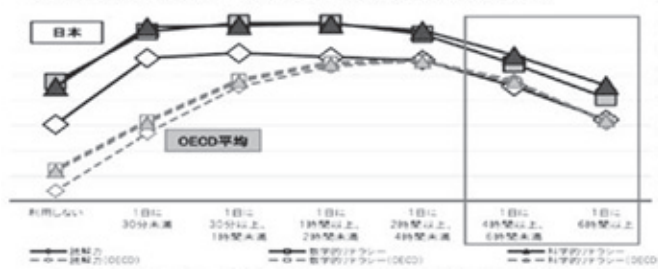
すぐれた文学作品を教材に



増山 均さん



学校外での平日のインターネットの利用時間別の3分野の平均得点



PISA 2018 ※ インターネット活用時間が長くなると「学力」が低下する



文化創造（教育・福祉）の先駆者
鈴木道太の実践に学ぶ
子ども・教育・地域・福祉に架け橋を


GIGAスクール構想と子どもが主役の教育

講師 児美川孝一郎さん（法政大学教授）

センターつうしん
102号 災厄時代の10年を想う（天田直道さん） 学校・教員に対する提言
103号 特集 コロナ禍の一年
104号 児美川講演記録「GIGAスクール構想と子どもが主役の教育」
105号 座談会「GIGAスクール 学校現場の今と課題」

- 1月 道徳と教育を考える会(隔月)・ゼミナール sirube の会(月例会)・「教育」を読む会(月例会) 研究部会(月1~2回) - 「年報」の内容検討 シンポジウムの打ち合わせ
- 2月 3・11大震災から11年「いのち・子どもと教育を考えるつどい」-福島双葉町と宮城女川からの報告
- 4月 『研究年報』第2号発行 特集:GIGAスクール構想とどう向き合うか
- 6月 シンポジウム~「GIGAスクール構想」下の子どもと学校, 教育と授業を考える
作文講座:こども・こころ・表現-書くことはつながること 書くことは生きること
- 7月 こくご講座:文学作品の授業づくり-文法から広がる読みの世界(第2回12月 第3回2023年2月)
- 8月 日本臨床教育学会との被災地聞き取り調査(亘理町 浪江町 東松島市の各小学校 石巻被災地など)
- 10月 みやぎ教育のつどい:講演 堀川修平さん「学校をジェンダーセクシャリティ平等な居場所に」
- 11月 「ナヤンデルタル」の会(11月~12月随時) - 文学作品の教材研究
- 12月 映画のつどい 大田堯「かすかな光へ」(宮城子どもを守る会と共催)

第8回 大震災から11年
いのち・子どもと教育を考えるつどい
~福島県の記憶と現在から考える、私たちの課題~
【講演】「福島県双葉町の小学校と家族 ~その時、あの時~」
小野田 陽子さん(福島県公立小学校教員)
<報告>「東北電力女川原発の今」 高野 博さん(元女川町議会議員)

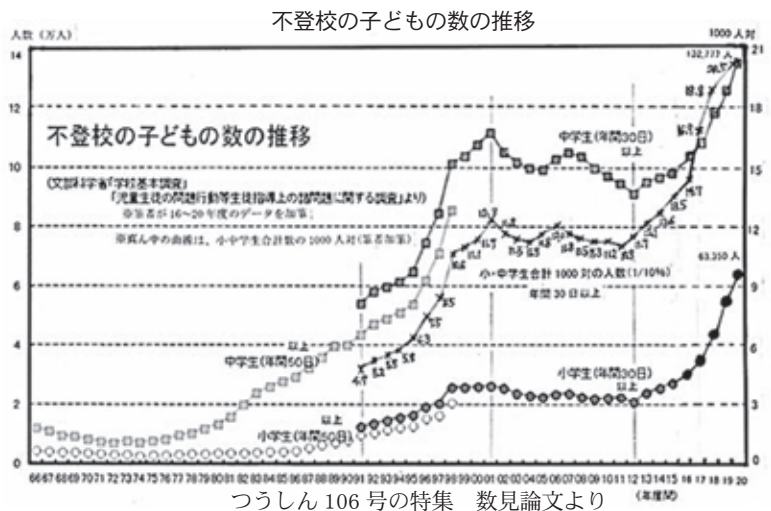



小野田 陽子さん 高野 博さん
子どもと保育園 つうしん 108号

コロナもひとつのチャンスに
渡部 友紀



コロナ禍での卒園式



子どもと学校 つうしん 107号

子どもの「なんで？」を大切にしながら



渡部 友紀

震災を語り伝える
若者たち
みやぎ・きずなFプロジェクト




瀬成田 実

つうしん 107号

仲間の本の紹介

楽しいほうがいいじゃない

林 由貴

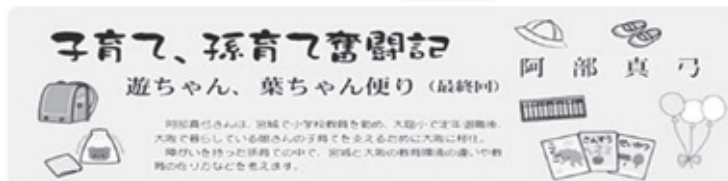


授業への招待⑤ つうしん 106号

子育て、孫育て奮闘記

遊ちゃん、葉ちゃん便り(最終回)

阿部 真弓



つうしん 106号

特集
子どもの生きづらさとは今

センターつうしん

109号 特集 今、子どもと学校は

108号 特集 子どもたちと平和を考える

107号 特集 GIGAスクール問題Ⅲ

106号 特集 子どもの生きづらさとは今

2023 年

- 1月 新春・教育講演会：藤田康郎さん「子どもたちと平和について考える」
道徳と教育を考える会（隔月） ・ゼミナール sirube の会（月例会） ・「教育」を読む会（月例会）
研究部会（月1回） - 「年報」の内容検討
- 2月 3・11大震災から12年「いのち・子どもと教育を考えるつどい」 - 大震災が子どもの育ちに与えた影響
- 6月 『研究年報』第3号発行 特集：子どもの生きづらさと学校の困難にどう向き合うか ・生活綴方講座
- 7月 シンポジウム ～子どもの生きづらさと学校の困難
- 8月 こくご講座：授業わくわく はじめのいっば（高橋達郎さんの授業報告他）（第2回10月）
- 9月 教育講演会：窪島務さん「すべての子どもにたしかな教育を」
- 10月 みやぎ教育のつどい：講演 萩上チキさん「ここまでわかったいじめの話」
- 11月 高校生公開授業：授業者 高橋源一郎さん「ぼくらの学校なんだぜ」
- 12月 「ナヤンデルタール」の会（随時） - 子どもとつくるお話の授業他

新春・教育講演会

子どもたちと平和について考える

講師 藤田康郎さん（元・和光小教師）

【講師紹介】
筑波大学卒業後、高校で講師をし、東京都立の中野区立第二小学校の教員として32年つとめ、2021年3月退職。
現在は、公立小学校の講師、筑波大学大学院の教育大学院でゲストティーチャーとして活躍中。

第9回 大震災から12年 いのち・子どもと教育を考えるつどい

【講演】大震災が子どもの育ちに与える影響 《報告》3.11 高校生の犠牲者から見た教訓

特集Ⅱ 子どもたちと平和を考えるⅡ

福地成さん（東北医科薬科大病院精神科）

高橋達郎さん（センター所長）

動物会議

大人はなぜ戦争をするの？ に応えて

数見 隆生

つうしん110号 絵本 ケストナー「動物会議」池田佳代子訳

LGBTQの授業

矢部 智江子

授業への招待

L/S/アイン	女性がむくむく
G/クイ	男性がむくむく
B/バイセクシュアル	男女両方むくむく
T/トランスジェンダー	ちがう性別なのに男/女
Q/クエス、ノンバイ	性別がわからない/性別がわからない

自分かむくむくもわからない...

教育講演会 すべての子どもにたしかな教育を！

～「隔田ニュース」を持つ子がいる学校・学校で～



講師 窪島務さん（滋賀大学名誉教授）



インクルーシブ教育の在り方をめぐって



高橋源一郎さん（作家）と対話し考える高校生

センターつうしん

- 110号 特集Ⅰ 子どもと共に生きる教師へ
- 111号 特集Ⅱ 子どもたちと平和を考える2
- 112号 特集 子どもと遊ぶ
- 113号 特集 学校とジェンダー問題

2024年

- 1月 道徳と教育を考える会（隔月） ・ゼミナール sirube の会（月例会） ・「教育」を読む会（月例会）
研究部会（月1回） - 「年報」の内容検討
- 2月 3・11大震災から13年「いのち・子どもと教育を考えるつどい」 - 高校生の犠牲者から見た教訓（高橋達郎さん）
センター30周年記念講演会 佐藤学さん「子どもと学校の危機、どう克服するか」
- 6月 センター30周年記念シンポジウム 発題 堀尾輝久さん「地球時代、これからの教育をどう創るか」
『研究年報』第4号発行 特集：子どもの生きづらさ・学校の困難の背景検討と実践の模索
- 7月 「3・11 高校生犠牲者からの命を守る『伝言』」新聞で紹介（以後マスコミ取材殺到 全国からパンフの要望）
- 8月 こくご講座：どうする？どうやる？ 国語・物語の授業（第2回11月 説明文の授業）
- 10月 みやぎ教育のつどい：講演 畠山澄子さん「核兵器のない世界のために私たちにできること」
「ナヤンデルタール」の会（随時） - 文学作品の育材研究と授業づくり
- 12月 高校生公開授業：授業者 ロバート キャンベルさん「戦争のなかの言葉への旅」

みやぎ教育文化研究センター設立30周年記念

佐藤学講演会 演題「子どもと学校の危機 どう克服するか」



佐藤学さん（東京大学名誉教授）の講演を聞く参加者

2024年(令和6年)9月18日(水)

毎日新聞

高校生犠牲者 命守る「伝言」



「高校生からの『伝言』」パンフ 全国に報道

当時の教員や遺族から情報収集

毎日新聞（2024/9/18）の記事

記念シンポジウム「地球時代 これからの教育をどう創るか」

発題 堀尾輝久さん

(シンポジスト)
久保 健さん (センター研究部長 宮教大名誉教授)
須藤道子さん (仙台の子どもと教育をともに考える市民の会)
千葉建夫さん (元小学校教員) 伊藤 慶 (小学校教員)



堀尾輝久さん



久保 健さん



千葉建夫さん



須藤道子さん



伊藤 慶さん



制野 寛

特集 授業づくり・学級づくり

子どもの心を解放した「せいこのランド」

センターつづしん

- 117号 特集 研究センター30周年・Ⅲ (2025.1.17 発行)
- 116号 特集 研究センター30周年・Ⅱ
- 115号 特集 研究センター30周年・Ⅰ
- 114号 特集 授業づくり・学級づくり

2024 高校生公開授業



ロバート キャンベルさん

ロバート キャンベルさんとたどる 『戦争のなかの言葉への旅』



畠山澄子さん (ピースポート共同代表)

みやぎ教育文化研究センター 30年のあゆみ

<p>1994 1期</p> <p>代表・中森孜郎 所長・中森孜郎 事務局・清岡修</p>	<p>運営体制・三役</p> <p>講演・シンポ(シ)・フォーラム(フ)など</p> <p>2月 設立記念講演 大田堯 「これからの子育て・ 教育に問われていること」 7月 佐藤学 「授業改革への提言」 10月(シ) いま早期教育を考える</p>	<p>つうしん・つうしん別冊(別)・ブックレット(フ)</p> <p>1号 研究センター発足にあたって 他 2号 子どもの権利条約は私の見方 3号 子育てシンポジウム報告 (フ) 大田堯 「これからの子育て・ 教育に問われていること」</p>	<p>その他の活動や発行書籍(書) など</p> <p>研究小委員会始まる 近現代史授業プロジェクト発足 子育てセミナー・学生セミナー ※8月 教育会館改築のため 北仙台に間借り</p>
<p>1995 2期</p> <p>同上</p>	<p>1月 花島政三郎 「スウェーデンにおける 教育と福祉を考える」 5月 大内洵子 「ドイツの教育 私の見たまま・体験したまま」 6月 中野光 「これまでの教育・これからの教育」</p>	<p>4号 「いじめ」問題に思う 5号 子どもたちは学校に何を求めているか 6号 「オウム」 と若者・教育 7号 中国の旅から、学校訪問交流の記録 (フ) 花島政三郎 「スウェーデンの教育と福祉…」</p>	<p>学力・授業・教育課程小委員会開設 15年戦争を考える中国への旅 ドキュメンタリー映画 「渡り川」 上映会 ※7月 教育会館に戻る</p>
<p>1996 3期</p> <p>同上</p>	<p>6月 田中孝彦 「人が育つということ」</p>	<p>8号 戦後50年 9号 教育の困難に立ち向かう 10・11 合併号 ポーランドの旅を終えて (フ) 大内洵子 『ドイツの教育』 私の見たまま・体験したまま」 (フ) 田中孝彦 「子どもは何を求めているか」</p>	<p>アウシュビッツ訪問の旅 (書) 近現代史授業プロジェクト発行 「食料・農業」学習資料作成プロジェクト 発足</p>
<p>1997 4期</p> <p>同上</p>	<p>4月(シ) 教育改革と中高一貫教育を考える 7月 堀尾輝久 「人権としての教育の 豊かな発展を」</p>	<p>12号 今、中学校と中学生は(1) 13号 産経の不当介入の真相と本質 県教委との会談録 14号 今、中学校と中学生は(2) (フ) 中森孜郎 「子どもたちへ歴史の真実を」 (フ) 堀尾輝久 「人権としての教育の豊かな発展を」</p>	<p>産経新聞 「近現代史授業プラン」への不当 介入 内蒙古・雲岡石窟・盧溝橋を訪ねる中国の 旅 映画 「夏少女」と早坂暁さん講演会 「夢千 代日記から夏少女へ」(柴田、仙台)</p>
<p>1998 5期</p> <p>同上</p>	<p>1月 藤田英典 「21世紀に向けての 教育改革を考える」 1月 安井俊夫 「近現代史の授業を どう創造するか」 7月 深谷哲也 「学校の挑戦・ 余市高校苦闘の10年」</p>	<p>15号 「教育改革」を問う 16号 子どもは変わったか 17号 障害児教育 特別なニーズ教育へ (フ) 藤田英典 「教育改革を考える」</p>	<p>教育を語るつどい(白石) 授業検討会(算数、美術、生活科、理科) ポーランド・チェコの平和の旅 みやぎの教育改革提言づくり会議 近現代史プラン-仙台市弁護士会が県教委 に「人権救済の申立書」を提出</p>
<p>1999 6期</p> <p>同上</p>	<p>1月 久富善之 「選ぶ学校から創る学校へ」 6月 総会 「宮城の教育改革提言(中間報告)」 をもちに討論 7月 行田稔彦 「総合学習の可能性と課題」</p>	<p>18号 教育における規制緩和は何をもたらすか 19号 宮城の教育改革への提言 20号 国旗・国歌の法制化と教育 21号 公立高校男女共学の早期完全実施を (フ) 行田稔彦 「総合学習の可能性と課題」</p>	<p>韓国・歴史を心に刻む旅 授業検討会(体育・生活指導・生活科) みやぎの教育改革への提言 近現代史プラン-県教委との会談で一応の 解決をみる</p>
<p>2000 7期</p> <p>同上</p>	<p>1月 今泉博 「授業の成立と教師の役割」 5月 佐藤学 「教育改革をデザインする」</p>	<p>22号 学校変革への道～教育改革は学校の変革から 23号 県教委の高校将来構想の検討</p>	<p>環境教育と美術・歴史の旅 <ドイツ、オランダ、ベルギーへ></p>

		6月 中西新太郎 「いま、子どもたちの『自己形成』を考える」 11月 増島高敬 「教えることと学ぶこと」 12月 浦野東洋一 「教育基本法と私たち」	24号 今を生きる高校生たちの世界	『教育』を読む会 (月例会) スタート
2001 8期	同上	1月 内山節 「子どもたちにとっての時間」 3月 (シ) 仙台市がすすめる二学期制を考える 6月 丸木正臣 「いまの子どものための危うさと可能性と」 9月 佐貴 浩 「『平和・共生』時代の教育と学力のあり方を問う」	25号 なぜ教育基本法を変えようとするのか 26号 希望は語られたのか 27号 開かれた学校づくり (フ) 中西新太郎 「いま、子どもたちの『自己形成』を考える」	イタリヤ世界遺産をめぐる歴史と文化の旅 (書) 資料集 「子どもと共に学ぶ総合学習 食と農」
2002 9期	同上	1月 (シ) 仙台市のすすめる2学期制を考えるⅡ 4月 (講・シ) 岩川直樹 「いま、学力と授業を問い直す」 6月 横湯園子 「子どものいじめ・暴力・不登校・自殺…」 11月 野田正彰 「『心のノート』と『心の教育』の危うさ」	28号 放課後の子どもたち 29号 新教育課程と学校づくり 30号 学校選択制を考える 31 (フ) 横湯園子 「子どものいじめ・暴力・不登校・自殺…」	授業実践検討会・国語 (村井由美) 授業実践検討会・総合学習 (徳水博志) ベトナムの自然・歴史・文化・教育を訪ねる旅
2003 10期	同上	1月 (フ) 教育基本法「改正」問題を考える 6月 堀尾輝久 「21世紀を拓く教育の創造を」 9月 銀林浩 「今日の学力問題の本質と授業のあり方」	32号 中教審答申の批判 33号 教師が育つとき 教師の資質向上をめぐる 他	座談会 教師の育つとき メルロポンティ・ゼミ 実技講座：野口体操入門 (羽鳥操) →隔月でワークショップ (中森・久保・吉田)
2004 11期	代表・中森孜郎 所長・春日辰夫 事務局・清岡修	1月 小森陽一 「21世紀に読み直す夏目漱石」 5月 (フ) 習熟度別指導を考える 6月 暉峻淑子 「子育て・教育における本当の豊かさとは」 11月 (シ) 「授業」を問い直す	34号 学校をつくる ～白川ハの教育実践を振り返る 35号 習熟度別指導を考える 36号 国旗・国歌の法制化と教育 37号 公立高校男女共学の早期完全実施を	
2005 12期	同上	2月 吉田六太郎 「ウソツキ教師の戦後史」 7月 映画と講演のつどい (映画「こんばんは」 講演・大田堯「鈍行列車と教育基本法」)	38号 学校を考える 39号 私の受けた歴史教育 40号 「人が人になること」を考える 41号 座談会 「いま、子どもたちは」	連続ゼミ 「授業と学力」第1期スタート 斉藤喜博・林竹二に学ぶ (中森・田中) カント 「啓蒙とは何か」 読書会 上海・南京・蘇州 平和友好の旅
2006 13期	同上	1月 高校生公開授業①：小森陽一 「宮澤賢治『鳥の北斗七星』を読む」 7月 映画「コウラス」をもとに教育における文化の力を問う	42号 小森陽一-授業報告 43号 学校に押し寄せる制度改革を考える 44号 教員評価と教師の仕事 45号 教育の魅力・教師の生き甲斐 (フ) 大田堯 「学ぶことは生き直すこと」	連続ゼミ 「授業と学力」第2期 国語 (菊池)・算数 (松井)・社会 (田中)・理科 (鈴木) 読書会 (「カントの人間哲学」 「学校と社会」)
2007 14期	同上	1月 長倉洋海 「紛争地で出会った子どもたち」 4月 佐貴浩 「安倍・教育再生会議と私たちの教育改革」 4月 公開対談 堀尾輝久&山形孝夫 「今、人間として生きる」	46号 学区制とあるべき高校教育を考える 47号 地域と学校を考える 48号 家族を考える	写真展 長倉洋海 「紛争地で出会った子どもたち」 連続ゼミ 「授業と学力」第3期 音楽 (降矢) 体育 (久保) 美術 (落合) 夏休み講座

		12月 高校生公開授業②：平居高志・小森陽一 「こどばの力を考える」			①からだをほぐし こどばを拓く(中森孜朗) ②音から音楽が生まれるとき(降矢美彌子)
2008 15期	同上	3月 池田香代子「100人の村から考える」 公開対談：池田香代子&山形孝夫 7月 増田ユリ「教育立国フライングノド流 『教師』の育て方」 9月 田中昌弥「学力向上と 新学習指導要領を考える」	49号 高校生の学びから授業を問う 公開授業から 50号 子どものこと 子どもとのこと 51号 東テイエール支援23年など 52号 子どもたちの今を見つめて 53号 学校教育の危機(困難)の中で (フ) 山形孝夫&堀尾輝久「今、人間として生きる」	(書) 授業双書「詩の授業のために」 春日辰夫 連続講座：学びびん場(5回) 板垣淑子・是枝裕和・新村響子・岩川直樹・ 見城慶和 夏休み講座 ①表現するからだの根っこを育てる 里見まり子 ②合唱は地球市民の全ての音楽 降矢美彌子	
2009 16期	同上	1月 A・ピナード「日本語の海にもぐった私」 7月 里見実「学校でこそできること」 8月 A・ピナード「フラザー軒のある街で 詩人・菅原克巳を語る」	54号 子どもの心と教育(太田直道) 55号 教育のつどいに参加して 56号 学校のいま、そして これから 57号 『お手紙』授業検討会 (フ) 中森孜郎「豊かな学力を育む授業を求めて」	連続講座 授業を創る(1月～6月)7回 渡辺恵津子①② 加藤公明③④ 小森陽一⑤⑥⑦ 第17回全国教育研究交流集会(3月) 実践検討会：教育実践とは何かを考える バレーボールの実践をめぐって	
2010 17期	同上	1月 仲本正夫「新しい世界の発見」から 『新しい自分の発見』へ 4月 高校生公開授業③：林光 「ひとりひとりの憲法」 5月 山形孝夫「暴力の背後には 何かがあるのだろうか」 6月 田中孝彦「子ども理解」	58号 教育実践とは何か バレーボールの実践を巡って 59号 「憲法って何だろう」公開授業から感想 60号 子ども理解(講演要旨)実践検討会報告 61号 教育現場はどうあればいいのか 座談会 他 (フ) 林光「ひとりひとりの憲法」	(書) 授業双書「子どもを育てる算数の授業」 夏の公開講座：アインス文化に学ぶ ①講話「アインスの文化とアインスの心」 (小川早苗) ②実技(切り絵・刺繍/歌と踊り)	
2011 18期	同上	2月 三上満「わが心の宮澤賢治」 7月 みんなで語り合う 「震災体験から地域・学校・子どもたちを」 9月 高校生公開授業④：A・ピナード 「言の葉食堂へいらっしやい」 12月 映画とお話 映画「かすかな光へ」 お話・大田堯「いま、伝えたいこと」	62号 学校が学校になるために 63号 震災特集「あの日・あの日から・そして今」 64号 震災から6か月 学校再生への道を考える 65号 あの日のことと学校づくりで大事にしたこと (フ) 暁峻淑子「子育て・教育における本当の豊かさ とは」	教育会館公益事業部門に変わる(6月) 新講座：戦後教育実践書を読む1期(5回) ①山びこ学校 ②新しい綴方教室 ③村の一年生 ④学校づくりの記 ⑤学級革命 3.11関連 戸倉小聴き取り	
2012 19期	同上	(シ) 震災を通して考える地域と学校 (フ) 第1回子どもたちの今と未来を考える ＜今どきの友だち事情＞	66号 あの日から1年 被災地の高校生は語る (別) 1号 しゅんすけ君のことば 他 67号 3.11が気づかせたこと (別) 2号 綴り方教育のすすめ 他 68号 新たな高校入試制度を考える 69号 大村県教育委員長に聞く 4年間で取り組んだこと (別) 3号 全身を使って描くこと 他	講座：戦後教育実践書を読む2期(4回) ①教師 ②新しい地歴教育 ③村を育てる学力 ④体育の子 つうしん別冊「こども・教育・文化」創刊	
2013 20期	同上	1月 高校生公開授業⑤：仲本正夫 「新しい世界の発見 新しい自分の発見」	70号 なぜ運動部活動で体罰が起ころのか 他 (別) 4号 ふるさとの心の復興を考える 他	講座：戦後教育実践書を読む3期(4回) ①人間づくりの学級記録	

2014 21期	同上	<p>4月 小森陽一「安倍政権の教育再生と日本」 6月 福田誠治「フロンティアの教育に学ぶ」 (フ) 第2回子どもたちの今と未来を考える <成續って何だろう> (フ) 第3回子どもたちの今と未来を考える <子ども時代を生きるということ> (フ) 第4回子どもたちの今と未来を考える <子どもと読書></p>	<p>71号 高校入試を考えるために (別) 5号 体温の学習 他 72号 3.11 2年半後の今、考えること (別) 6号 雄とハエと子どもたち 他 73号 被災地での子ども支援から見えること (別) 7号 わが「田尻さくら高校」他 (フ) 福田誠治「フロンティアの教育に学ぶものは何か」</p>	<p>②川口港から外港へ ③幼い科学者 ④おくれた子どもの生活指導 哲学ゼミ sirube 「人間教育の哲学史」スタート (書) 「安倍政権は憲法と教育をどう変えようとしているか」 (書) 国語実践書「文学作品の読みの授業」</p>
2015 22期	代表・中森孜郎 所長・菅井 仁 事務局・清岡修	<p>1月 高校生公開授業⑥：三上端 [水仙月の四日] 2月 齋藤兆史「『グローバル化』と英語 —日本の英語教育はなぜ混乱するか」 10月 高校生公開授業⑦：金平茂紀 [世界の取材現場から見た日本] (フ) 第5回子どもたちの今と未来を考える <子どもたちの放課後事情> (フ) 第6回子どもたちの今と未来を考える <不登校></p>	<p>74号 子どもを取り巻く状況と保育所の役割 (別) 8号 読む力をもつに育てるか 他 75号 教師の私が教師になるために (別) 9号 「モンスタースクーン」あらわる 他 76号 震災から3年半 あの時、そして今、考えていること (別) 10号 書く力をつけるために 他 77号 日本臨床教育学会第4回研究大会・報告 (別) 11号 国語・英語共同授業の報告 他</p>	<p>大震災と学校・教育を考えるつどい 日本臨床教育学会研究大会 協賛 11月 設立20周年記念のつどい 太田直道講座「道徳と教育」開始 (隔月) 国語講座 (3回) センター20年誌完成</p>
2016 23期	同上	<p>1月 中村桂子「生きものとしての人間から 自然と科学を問う」 (フ) 第7回子どもたちの今と未来を考える <子どもの育ちと「食」></p>	<p>82号 座談会：やりがいのある教師の仕事 (別) 14号 「カマラード」の歩み 他 83号 宮城の特別支援教育と子どもたち 84号 社会の主人公を育てる保育・教育の創造 (別) 15号 「ごんぎつね」山場のテーマと 発問プラン 他 85号 保健室と子ども・学校</p>	<p>(書) 「宮城の保健室」 国語講座 宮川健郎 「児童文学の想像力と子ども」 日本臨床教育学会との被災地聞き取り調査 子どもと授業を考える若い教師の会③ 国語講座；かさこじぞう・ 大造じいさんとかん</p>
2017 24期	代表・数見隆生 所長・菅井 仁 事務局・清岡修	<p>1月 高校生公開授業⑧：樋口陽一 [憲法という人類の知恵] 5月 安田菜津紀「私の出会った子どもたち」 12月 高校生公開授業⑨：中村桂子 [知の発見なぜ？を感じる力]</p>	<p>86号 子どもたちの育ちと「食」 (別) 16号 「平和な世界へ」美術の授業他 87号 新学習指導要領を考える 88号 いじめ」をみんなで考える (別) 17号 高校生の進路指導の難しさ 他 89号 子どもを原点に今日の教育課題を問う (フ) 中村桂子「生きものとしての人間から、自然と 科学を問う」～生命誌の世界をのぞいてみよう</p>	<p>新ホームページリニューアル開設 国語講座 (3回)</p>
2018 25期	同上	<p>12月 高校生公開授業「ブレ企画 加藤公明「社会科学史の授業を どうつくるか」</p>	<p>90号 いじめ問題を考える (別) 18号 生きること・学ぶ意味を問い直す 俳句・短歌 他</p>	<p>日本臨床教育学会との被災地聞き取り調査 算数授業づくり講座①② 講師：林由貴 国語講座 (3回)</p>

			91号 今、子どもたちの幸せを願って 92号 「生きること」としての表現 (別) 19号 道徳の授業をつくる他 93号 日本の教育はどこに向かっているのか	(書) 中森政郎 『憂憤録』の頃と私』 刊行 (書) 『東北の教育的遺産』 刊行
2019 26期	同上	2月 高校生公開授業⑩：加藤公明 「歴史探究なぜ?を問うおもしろさ」 4月 岩川直樹 「30センチの向こう側へ」	94号 宮城の教育はどこに向かっているのか 95号 岩川直樹講演 「30センチの向こう側へ」 96号 映画「学校」を創る中で考えたこと (阿部勉) (別) 20号 1年生、今日も元気いっぱい 他 97号 いま学校に求められていること	1年生のめんこいゼミ 4回開催 日本臨床教育学会との被災地聞き取り調査 国語講座 (2回) 国語チャンドルタワー (仙教組と共催) 開始
2020 27期	代表・数見隆生 所長・高橋達郎 事務局・清岡修	1月 高校生公開授業⑩：山極寿一 「サル化する人間社会 ～ゴリラから学ぶこと」 2月 田中孝彦 「教育・子育ての危機の中で ～大田堯の仕事から学び直しを」	98号 山極寿一さんの高校生公開授業概要 99号 コロナ休校で子ども・学校・教育は 100号 コロナ禍の夏に生きる、考える 2 「センチターシューしん」 100号を迎えて 101号 コロナ禍での科学的教育活動 (フ) 山極寿一 「サル化する人間社会 ～ゴリラから学ぶこと」	研究部会立ち上げ 国語講座 (3回) 太田直道講座 「道徳と教育」 ＜江戸時代の教育事情＞スタター (隔月) 国語チャンドルタワー (仙教組と共催)
2021 28期	同上	7月 児美川孝一郎 「GIGA スクール」構想と 子どもが主役の教育」 11月 増山均 「鈴木道太の実践に学ぶ」	102号 災回時代の10年を想う 103号 コロナ禍の1年 104号 児美川孝一郎 「GIGA スクール」構想と 子どもが主役の教育」 105号 座談会 「GIGA スクール 学校現場の今と課題」	(書) 「研究年報」創刊号 コロナに向き合う主体をばぐむ ※コロナ禍で多くの企画が不可
2022 29期	同上	6月 (シ) 「GIGA スクール」構想」下の 子どもと学校、教育と授業を考える 12月 映画のつどい大田堯 「かすかな光へ」 ※宮城子どもを守る会と共催	106号 子どもの生きづらさど今 107号 GIGA スクール問題 III 108号 子どもたちと平和を考える 109号 今、子どもと学校は	(書) 「研究年報」第2号 GIGA スクール構想と どう向き合うか 国語講座 (3回)
2023 30期	同上	1月 藤田康郎 「子どもたちと 平和について考える」 9月 窪島務 「すべての子どもに確かな教育を」 11月 高校生公開授業⑩：高橋源一郎 「ぼくらの学校なんだぜ」	110号 1子どもと共に生きる教師へ II 子どもたちと平和を考える 2 111号 子どもと遊び 112号 子どもの生きづらさと学校づくり 113号 学校とジェンダー問題	(書) 「研究年報」第3号 子どもの生きづらさと 学校の困難にどう向き合うか 哲学ゼミ sinube 「人間教育の哲学史」終了 「人間とその術」スタター 国語講座 (2回)
2024 31期	同上	2月 佐藤学 「子どもと学校の危機、 どう克服するか」 6月 (シ) 地球時代これからの教育をどう創るか 堀尾輝久・千葉建夫・須藤道子 久保健・伊藤慶 12月 高校生公開授業⑩：ロバート キャンベル 「戦争のなかの言葉への旅」	114号 授業づくり・学校づくり 115号 研究センター 30周年 I 116号 研究センター 30周年 II 117号 研究センター 30周年 III	(書) 「研究年報」第4号 子どもの生きづらさ・ 学校の困難の背景検討… 国語講座 (2回) ホームページのリニューアル

教育への思い・ センターへの期待 (その3)

子どもの“理由”^{わけ}を聞く耳をもつ大人に

鎌田 克信

ベテランのA先生は、授業中、立ち歩きをする子どもが複数いる3年生の担任になりました。その一人が、Bさんです。2年生のときは、立ち歩くと厳しく叱られていました。

学年が上がっても、立ち歩きは続きました。先生は、注意はしても、「なぜ歩きたくなるの？」と穏やかな声で聞き続けました。いつも返事は「わかんない」。それでも先生は、なぜ歩き回るのか観察し続けました。

そんな先生に、子どもたちは、「厳しくしないと聞くことを聞かないよ」と言います。先生は、「自分の頭で考え、自分の心で気持ちを抑えられるようになってほしいんだよ。」と返しました。

ある日、先生は気づきます。Bさんの立ち歩く先は、黒板脇の壁の前が多いのです。「なぜここに来るの？」と聞くと、「時計が見えないから」と答えました。視力が低いBさんの席は、教室の前方ですが、時計からは遠いのです。先生は考えました。「Aさんの近くに時計を設置したらどうだろう。」そこで、用務員さんに時計を設置してもらいました。それと、小さな時間割を机の左隅に貼りました。もちろん、学級の子どもたちには、時計が増えた理由を説明し「うん、いいよ！」と合意も取り付けました。

「時計が見えるから、立たなくていい！ 時間割があるから、次が何かもわかる！」と、Bさんはうれしそうに話しました。

もちろん、Bさんが歩き回る“理由”は、これだけではありません。それでも、立ち歩くには“理由”があり、それを聞き取ることで、本人はもちろん、他の子どもたちも仲間への理解を深めていきました。先生は、子どもの“理由”を感じ、理解し、子どもたちと確かめ合っていたのです。そして、その“理由”を代弁して見せたのです。

子どもたちの行動には必ず“理由”があります。子どもも先生も、その“理由”にふれることで互いの眼差しを温かく、豊かにしていきます。大人が“理由”を聞く耳を研ぎ澄まし、一緒に考えてくれることを、子どもたちは求めているのです。

(東北福祉大学)

母として、教師として ~模倣の天才たちへ~

玉手 まなみ

3歳になった娘との会話より

「お母さんペーパーとってあげる。」

「どうもありがとう。結ちゃんやさしいね。」

「なんでそんなにやさしいの？」

「結ちゃん強くなったから。」

「そうかあ。強くなるとやさしくなるんだあ。どうして強くなったの？」

「うーんとね……、母さん見てたから。」(えっ!! そう来る!? (笑))

「母さん見てたら強くなったんだ! 母さんそんなに強いの?」

「うん!」

「どれくらい強いの?」

「これくらい!」(力強くファイティングポーズ!)

…母娘の会話は続く…(※お気づきかと思いますが場所はトイレです。)

1学期までは小学校で6年生を担当していましたが、現在は第2子出産を控えて産休を取り、娘とともに実家に里帰り中です。先送りしていたトイレトレーニングを始め、彼女のトイレには私が付き添い、彼女もまた私のトイレに付き添ってくれます。

自分が3歳だった時の記憶はないので、3歳って自分の考えをしっかりと表現できるし、いろいろなことができるものだなあと日々驚かされています。記憶力も抜群です。

でも驚くようなことでもないのかもしれませんが、まだ3歳ではなく、もう3歳。ものすごい集中力で情報を収集して、模倣して、感覚を養って、を繰り返して成長してきています。周囲の人の行動や状況を読み解き、すぐさま自分で再現しようとする機能は大人を圧倒します。

母としても、担任としても、子どもたちと関われるのはそれぞれ限られた時間です。こちらが教えようと思って伝えられることもきっとほんの一部。

子どもたちの

- ・日常にあふれる幸せなことを見つけて自分の機嫌を自分でとれる。
- ・心や体の調子が良くないとき、必要な栄養を食事で摂り、睡眠をとって回復できる。
- ・自分の力が足りないとき、人に頼ることができる。

そんな人への成長を願っています。

模倣の天才たちへ“ほんの一例です”と、ご機嫌な姿と、ご機嫌ではいられない時にはしっかり周りを頼る姿を見せながら、子育てと仕事を楽しんでいきたいと思います。(柴田・東船岡小)

教育に「自由」を取り戻す

渡辺孝之

2023年度の児童生徒の不登校が前年度より5万人余り増加し35万人を超えました。一方教職員の精神疾患による病気休職者も2022年度6539人で過去最多となっています。

教職員の精神疾患病気休職者の傾向を調べると横ばいが続く時期と急増した時期があることがわかりました。顕著なのは2003年から5年にかけてです。

2003年2687人 2005年4178人(1491人増)

この時期の教育政策を年表からピックアップしてみました。

2000年 40人学級の学級編制改定見送り

2001年 習熟度別授業の実施

2002年 「学びのすすめ」で宿題奨励、学校5日制実施でも「学力低下」で授業時数増

2003年 「指導力不足教員」3名を免職、中教審が教育基本法「改正」を提言

2004年 教員免許更新制検討

2005年 「ゆとり教育」転換

2006年 「改正」教育基本法成立

2007年 全国学力テスト実施

教育基本法「改正」を頂点としながらも、その前後に新自由主義的教育改革が次々と進められています。それらの改革と精神疾患による病気休職者の増加の因果関係はわかりません。けれども、どんどん管理統制が強制され、教員の裁量が制限され自由がなくなっていることは間違いありません。これに引き続いて、学校には許容を許さない「ゼロ・トレランス」と呼ばれる生徒指導や画一的指導をもたらす「スタンダード」が席卷し始めます。

多様性の社会と言われながらも、教育では多様性への対応が部分的です。教育は、子どもたち一人ひとりの幸せの実現のためにあるものであり、そのためには子どもたち一人ひとりに寄り添ったものでなければなりません。同時に、個別ではなく共同を重ねて他者と関わり子どもは成長していくものです。そのために教師は試行錯誤を繰り返します。その営みの保障が必要です。

教育文化研究センターには、奮闘する教職員に対し、自由を取り戻し、教育を魅力ある仕事だと思えるための発信を続けていただきたいと思います。
(宮城県教職員組合 執行委員長)

私たち自身が新自由主義から解放されるために

高橋正行

新自由主義が世界を覆い、残念ながら私たち自身もそれに蝕まれている。自己責任論と対をなす「自分さえよければいい」という考え方である。長い間教員をしてきたが、本来、協力・協同で成り立つ学校が意外にもこの自己責任論に毒されている。子ども・生徒たちに「いじめは良くない」と言いながら、教員同士の間にいじめが蔓延する学校。教職員ばかりか管理職までもが、教員同士のいじめを目の当たりにしながら、見て見ぬふりをする、最悪は管理職自身がそのいじめグループの一員となる。その方が管理職として教職員管理がうまくいき、管理職としても良い評価が得られると勘違いするからである。

未組合員の教職員組合への勧誘の断り方も気になる。「組合に入らなくても賃金や権利が改善されるときは組合員でなくても改善される。組合に加入する意味を感じない」である。

世界の平和が脅かされ、日本の平和も危うい時代になっている。地球温暖化等、環境破壊も危機的であり、日本の政治は目を覆いたくなる状態が続いている。これだけの社会矛盾に対し、何故若者は声を上げないのか？ と思ってきたが、このような若者を育てたのは私たちの教育であり、「自分さえよければいい」と考える私たち教師だったのである。私たちさえも蝕むこの新自由主義から解放されるにはどうすればいいのかと考える日々である。

最後に研究センターへの要望を述べたい。GIGAスクール構想・実施により多くの職場そして教職員は疲弊し子どもたちも苦しんでいる。このような状況の中で研究センターが様々な学習会等を実施し問題点の解明等に取り組んできたことは理解できる。しかし、教育文化の研究を通し次の時代の教育の在り方を展望する組織であれば、広く教職員・市民に対しても声明を発する等、積極的なアピールを行うべきではないだろうか。

東北大学は国際卓越研究大学に認定され、今後毎年100億円が交付されることが大きなニュースになっている。しかし、これは本当に手放して喜べることなのだろうか。軍事研究等、大学が抱える問題は深刻である。研究センターはこのような時こそ、冷静にしっかりと市民や社会にアピールしていく役割があるのではないかと考える。
(宮城県教育会館理事長)

いつかまた会える日を

～不登校S君とかかわって～

貝塚 順子

S君は中学3年だが、ここ5年ほど学校に行っていない。

S君の母は私とも勤めていた施設の利用者さんだった。退所後1年に2回ほど訪問していた。母子世帯でもあり退所後の苦労は精神面、経済面、子育て面で相当なものがある。精神的に病みここ1年半の間2度ほど入院している。兄が2人いるが最近勤め始めたという。S君は孤独だ。

私はファミリーホームに勤めていたし、養護施設の子ども(T君)のふれあい里親になつていて時々泊まりに来るので、時々S君をさそつては外出などするようになった。S君の母も自分は体調悪くてどこにも連れていけない。よろしくお願いしますと信頼を寄せてくれていた。

一昨年4月、S君より「鼻詰まりがひどく耳鼻科に連れて行ってほしい」とLINEが入り、すぐ駆け付けた。その時びっくりしたのだが、自分の住所が書けなかった。生活状況をきくとお母さんが置いて行ってくれたお金で弁当など買つて細々生活していたようだ。外出に誘い、朝なに食べたか聞くと飴玉1個とか、夕食は食パンにジャムをつけ食べているという。着ているものもいつも同じ。散髪も自分でしているという。駅前待ち合わせたときは1時間かけて歩いてきたという。まさに生存権、学習権、社会体験など奪われ、社会から疎外されている少年が目の前

にいた。私の知り合いにも声掛け食料など差し入れた。

放っておけないと児童相談所(児相)に通報したが何ということはなかった。

月に2度ほど外泊をさそうと喜んでくるようになった。電車の乗り方や料理を覚えたり、掛け算九九や漢字を覚えたりした。また山に登ったり、農業を手伝ったり、古川のポニー牧場に連れて行ったりもした。T君やホームのK君もいるのでふざけたり笑顔も見られるようになった。力のある子どもだった。

7月末、T君と一緒に泊まりに来た。T君は2泊で帰ったがS君はもう1泊するという。ちょうど月曜日だったので児相に本人から電話させる。午後面接につながり送迎する。明日登校の制服や準備もあり夕食後自宅へ帰した。夜10時過ぎピンポンとなる。自宅のカギが閉められていた。自宅にはもう帰りたくない。翌日私服のまま私も一緒に登校。校長先生、養護の先生と話す。学校にもS君のことで声が寄せられていたという。学校からも児相に連絡。その日の午後によつと一時保護につながった。今後良い環境の中で育てられ、本人の希望する進路が保障され将来に結びつくように願ってやまない。いつかまた会える日を楽しみにして。

(宮城子どもを守る会)



おすすめ映画

豊永 敏久



『母べえ』

山田洋次 監督 吉永小百合 主演 2008年

太平洋戦争前後の東京を舞台に、反戦思想ゆえに治安維持法違反の容疑で投獄された夫と、留守を守る妻・娘・親戚や教え子たちとの交流・悲喜を（ユーモアも交えながら）描いた作品。マルクス主義のドイツ文学者・野上巖の次女・照代氏の自伝的小説に基づく。



「非国民・国賊」として反戦思想を弾圧した警察官・検察官、善悪の判断を停止して治安維持法体制に順応していった知識人、「ぜいたくは敵だ」というスローガンの下で貴金属を供出するよう迫る婦人会、離婚を迫る実父。それらの冷たい視線を浴びながら懸命に生きた夫婦の苦悩がじわじわ伝わってくる。当時の社会を知る格好の歴史教材にもなるだろう。

作品の根底にある精神について、監督の山田洋次氏は書いている。「自信満々で、おれは正しいと信じ込んでいる人は、……他人を思いやる、あるいは他人の気持ちを探するということができないという気がします。いつも傷ついて、弱音を吐かざるを得ない立場や環境にいるしかない人は、我がことのように、他人を思いやる事ができる。世の中の明るい場所をずっと歩んできた人には、陰を歩いている人の悲しみが分からないと思う」と。

その精神は、エンディングクレジットにかぶせて朗読される詩に象徴されている（野上巖の作品「妻に与える詩」の一部）。最初に映画館を見たとき、私はその朗読を聞いて涙が止まらなくなり、最後の一人になるまで席を立てなかった。身を粉にして働き、子どもを育て、戦争を嫌い、慎ましく真面目に生きようとする生身の人間を苦しめる間違った社会。そんな時代に抗う静かな怒りこそ、戦後教育を担う私たちが決して忘れてはいけない原点なのだ。

（高校教員）



読書のすすめ (第18回)

矢部智江子

おすすめ BOOK

『ぶたにく』

大西暢夫 写真・文 幻冬舎 2010年



今話題の本に、『もうじきたべられるばく』という絵本があります。もうすぐ食べられることが分かっている子牛が、食べられる前に故郷の母親にひと目会おうと帰省する話です。私たちが食べている牛肉になる牛も、もともとは生きていたということ、また産んでくれた母親がいることを思い出させる絵本です。読んでいて切なくなり、命を無駄にしてはいけないと思わせる本です。

今回紹介する本は、同じテーマですが、フィクションではなく、事実を写真で知らせている絵本です。絵本の豚は、鹿児島県鹿児島市の郊外にある「ゆうかり学園」という知的障害のある人たちの福祉施設で育てられています。そして、ここでは生まれた豚を育てるだけでなく、肉に加工して販売するまでを行っています。その過程を丁寧に追って、写真で説明しています。

多くの母豚は、1年に2～3回出産し、それを4年間くり返して、生涯で80匹以上の子豚を産むそうです。そして、子豚が生まれると、子豚がくわえる母豚の乳首は、生まれてから2日ほどで決まるといいます。強いものがよく乳が出る乳首を選び、どんどん大きくなっていくのだそうです。

そして、生まれてから10ヶ月ほどしかたっていない若い豚が、肉にされてしまいます。トラックに乗せるときに職員の方が、「と場に連れて行く仕事が一番つらい」と話していました。日本では、毎日6万頭もの豚が肉になっているそうです。豚は、人間が作った流れの中に生きています。豚は、人間の都合で生かされているのです。最後の言葉、「すべてを食べ尽くしてこそ、むくいることだと僕は思う。」が心に刺さります。

私は現役の時、給食がたくさん残ることに、とても心が痛みました。きっと今もたくさん残されていることでしょう。完食を強制するのは良くないでしょうが、肉や魚は、尊い命をいただいていることを、子どもたちに伝えていきたいものです。

『もうじきたべられるばく』は低学年向けですが、この本は、高学年の子どもたちに、ぜひ読んで聞かせたい1冊です。

（元小学校教員）



子どもの笑顔が見られるように

みやぎ教育相談センター相談員 佐々木 久 美

はじめに

相談センターに来ている子の話を聞くことは、私にとって新鮮で面白い。一方で、自分のこれまでの教師生活を振り返ることにもつながっている。子どもたちから聞く学校の話、親の話を聞くにつけ、学校や教師たちによる価値観の押し付けを強く感じることもある。そして、小学生から中学生へと成長し、親への反発の気持ちを表しつつも親の気持ちも理解できるようになっている子どもたち。子どもってそんな気持ちだったのか……今さらながらに気づかされることもある。中学生のものの見方や考え方の鋭さに驚かされる。

そんな会話の中から、一つ紹介

「先生たちは、何かにつけ、『君たちは先輩たちから代々〇〇中魂を受け継いでいるから頑張れ!』と言います。〇〇中魂と言われても気持ちは追いつきません。」

〇〇中魂と聞くと、強い気持ちを持つて何事にも立ち向かっていく、倒れても立ち上がって頑張る、気持ちを奮い立たせる、一致団結など、そんなイメージを持つのではないだろうか。中学校は、中総体や文化祭、体育祭、定期テスト、そのほかにも行事がある。その度に〇〇中魂を植え付けられて、奮起する子もいれば、興ざめする子もいる。往々にして、教師は口にしがち。でも興ざめている子がいることの見えてはいないのでないだろうか。そんなことを考えていると、「魂」という漢字だけではなく、行事ごとに使ってきた「心をついに」「団結」も。もしかして、こういう言葉がいやだった子は少なからず教室にはいて、その子たちは「反対」するエネルギーがなかったただただただでは? と反省させられる。かつこいと思われる言葉を

知らず知らずのうちに押し付けてしまったのか……言葉の重みを痛感させられ、気づかされる。そういう意味でも、気づかせてくれた相談センターに来る子たちに感謝である。

宮城県は、不登校ワースト1!

他県から来た学生の話から

宮城では、ほとんどの学習塾の窓に、〇〇高△人合格! と書いた紙が貼ってあることに驚いた。競争が常態化している。自分の出身の県では、もっと子どもたちはのんびりしている、と。他県から宮城に来た学生たちは、宮城の子どもたちは、競争を強いられて大変と話していた。もちろんこの貼り紙だけが不登校の原因とは思えないが、さらに、教師たちの働き方がブラックと言われ、その影響が子どもたちに出ているのでは? 教師たちの疲労感が知らず知らずのうちに敏感な子どもたちに移り、子どもたちも疲れてしまう。先生に自分を見てほしいと思っても見てくれない。話を聞いてもらいたくても聞いてもらえない。そうしているうちに、自分の気持ちをしまいこんでしまう。友だちとも話さなくなる。自分はどう見られているか、比べる必要がなくても人と比べてしまう。気にすることはないと伝えても気にしてしまう。そして不安になる。特に中学生は、試験により、順位をつけられる。そこで、現実の成績を突きつけられてしまう。「あの子は成績がいい。頭がいい。」自分ももっと頑張らなければ……そういう中で、頑張れる子もいれば、やる気ななくしてしまう子もいる。そして、学校に行けない、教室に入れない状況になる。自分を見て、話を聞いてくれる場、それが今相談センターになっていく。もっと楽しい、余裕のある時間、気楽な友達との付き合い方があるといいのに

と思う。

家族の方との面談を通して

家族の方との面談で新たに知る事がたくさんある。自分の子の特性を分析し、調べ、いろいろな支援団体や会にたどり着く。その先の支援の方法はそれが子が合った支援の方法。学校も困っている子どものニーズに応えなければならぬと思うが、今の多忙な現場で一人ひとりのニーズに答えられるか!? 登校しぶりの子の対応について、学校に求められるものが多いが、正直今の多忙な現場では、学校の体制より、個々の教師の受容する気持ちと力量と時間(勤務時間外)に頼っていることが多く担任任せになっている。登校できない子どもたちの状況は、一人ひとり本当に実態が異なり、対応も異なる。社会全体で受け止め、理解していかなければならないことが多い。せめて、学校全体で理解を広める必要があるのでは……そうしないと、「個性の尊重」「個に応じた指導」という言葉もうわべだけのかっこいい言葉で終わってしまう。

最後に

相談センターでは、一対一で向き合い、おしゃべりやいろいろな活動をしている。笑顔で「ありがとうございます」と言って帰っていく姿に「ああ今日も来てくれた」という安心感を覚える。一人でも多くの子どもたちの笑顔が見られたらいいと思う日々である

「みやぎ教育相談センター」

TEL 0222-272-4152

土・日曜と祝日をのぞき

10時から17時

先生の何気ないことば

佐藤 正夫（センター運営委員）

3年生を受け持った時のこと。4月の遠足前日に日程やら持ち物の話をした。その時弁当のことも話した。遠足に弁当忘れる子はいないと分かっているのに、次のような話をした。「うちの人は準備万端お弁当用意してくれると思うけど、急に病気になるたり、急用ができたりすることもあるんだよね。だからそういうときでも泣かずに学校に来い。先生がちゃんと弁当用意してやるから。」本気ではなかった。5月に家庭訪問があった。あるお母さんが、その話を聞いてきた娘の興奮ふりを教えてくれた。そして、「娘はいっぺんで先生が好きになったようですよ。」と嬉しそうに話した。私には驚くべき話だった。

高学年を持った時のこと。活発な女子の陰になって、自信なさそうに過ごす子がいた。私が見るに、その子の中にはやさしさも努力も惜しまない誠実さがあった。毎年の年賀状に、「大丈夫、お前ならできる。俺が保証する。」みたいな根拠のないエールをずっと送り続けた。彼女が25歳ほどになった時のこと。年賀状に「私は、やっと前を向いて歩けるようになりました。先生の励ましが力になりました。」とあった。えっ！あの子は自分の力で進める力があるのに、こんなに時間が必要だったのか！と逆に驚いてしまった。

「先生の何気ないことば」は、良くも悪くもこんな届き方をすると教えてもらった。忘れないようにしたい。

子どもの風景「作品について」……鈴木 裕子（宮城作文の会）

この作品を書いたようたさんは、穏やかな男の子です。普段は、物静かに過ごしていることが多いのですが、週1回の日記には、自分や家族とのことを素直に書いてきてくれます。

学校では、みんなの机を揃えて帰るといふ当番の仕事を、毎日欠かさずに行っています。でも、家では、お風呂掃除をしたくなくて、弟と勝負して当番を決めている一面もあるなんて、ようたさんいいね！ じゃんけん勝負では、弟の行動パターンをよく分析して、ほとんど勝っているなんて、さすが兄だね！でも、たまに先を読みすぎて負けてしまう姿も微笑ましくていいよ！

この姿をみんなに伝えたい！ と思い、後日、一枚文集に載せて読み合いました。弟とのじゃんけん勝負の場面では、みんなの笑いとようたさんのはにかんだ笑顔が教室にありました。ようたさんの人柄のように、穏やかな朝の時間をみんなが過ごしました。

センターの動き

10月

3日（水）河北新報「3・11高校生調査」についての取材

11日（金）第9回事務局会議

12日（土）午前・研究部会 午後・「教育」（10月号）を読む会

21日（月）ゼミナルside『人間とその術』第6講1「術の現在」

27日（日）「2024みやぎ教育のつどい」フォレスト仙台

2日（土）研究部会

11日（月）道徳と教育「福沢諭吉」

16日（土）午前・「教育」（11月号）を読む会

11月

午後・第2回こくご講座「説明文の読み方」

22日（金）第10回事務局会議

25日（月）ゼミナルside『人間とその術』第6講2「術の倫理学」

27日（水）第2回運営員会（11名参加）

30日（土）午前・つむぎの子ども園 マルシエ（竹とんぼ）

午後・仙台市民の会講演会「校則をなくした中学校」（西郷孝彦）

3日（火）朝日新聞（三浦）「3・11引き渡し問題」取材

6日（金）朝日新聞（石橋）「3・11高校生」遺族との懇談（石巻夜・「国語ナヤンデルタール」

7日（土）「教育のつどい」第4回実行委員会

14日（土）2024年高校生公開授業

21日（土）午前・「教育」（12月号）を読む会

23日（月）ゼミナルside『人間とその術』6講3「技術から芸術へ」

27日（金）第11回事務局会議

6日（金）朝日新聞（石橋）「3・11高校生」遺族との懇談（石巻夜・「国語ナヤンデルタール」

7日（土）「教育のつどい」第4回実行委員会

14日（土）2024年高校生公開授業

21日（土）午前・「教育」（12月号）を読む会

23日（月）ゼミナルside『人間とその術』6講3「技術から芸術へ」

27日（金）第11回事務局会議

編集後記

10年前の2015年に『みやぎ教育文化研究センター創立20周年記念誌』が発行されています。それから10年、センターはどんな仕事をしてきたか、20年誌をまとめた千葉建夫さんに、またその後の「10年誌」をまとめていただきまし。さらに創立からの30年の歴史を菅井前所長に作成していただきました。未来の教育の発展、子どもたちの幸せにつながっていくことを願っています。

今年の高校生公開授業は、ロバートキャンベルさんにおいていただき、ウクライナ戦争と言葉の問題を深く考えさせられました。次号でその報告をしたいと考えます。ご期待ください。

（達）

